郡遺跡発掘調査概報

（株式会社孔官堂倉庫建設に伴う調査）

平成５年３月

茨木市教育委員会

はじめに

茨木市は、南北に長い地形をしており、豊かな自然を背景に、古代より多くの人々が歴史を刻み、生活の営みの痕跡である文化遺産が、数多く残されています。

文化遺産の中には、私たちには、直接見ることができないものもあります。このような貴重な文化遺産の中には遺跡も含まれています。遺跡は、私たちの先人の活動の場であったものが、時代とともに土に埋もれ、山野、田畑あるいは宅地等に姿を変えながら長い年月保存されてきました。

しかし、近年にみる大規模開発は、今まで地下に眠っていた文化財の散逸を招くことになりました。そのため、茨木市教育委員会では、市内において毎年発掘調査を実施しております。発掘した遺跡の重要性を認識するため、遺跡の歴史的環境を復元し、後世の人達に伝えるとともに、市民の皆さまにとって、郷土を深く知る手掛かりとなり、郷土愛のさらなる醸成に寄与することになりますならば、幸いに存じます。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたりまして、ご協力いただきました関係の皆さまに感謝いたします。

平成５年３月

茨木市教育委員会
教育長　村山和一

例　　言

1．本書は、平成４年度に株式会社孔官堂より調査の依頼により、茨木市教育委員会が調査を実施した発掘調査の概報である。

2．調査は、茨木市教育委員会社会教育部社会教育課宮脇薫を担当者として実施した。

3．調査資料の整理は、茨木市立文化財資料館において行った。

4．調査においては、株式会社孔官堂、川西建設株式会社、株式会社田中組の協力を得た。

5．写真測量を実施にあたっては、アジア航測株式会社の協力を得た。

目　　次

はじめに
例　言
第1章　位置と環境　（1）～（3）
第2章　調査に至る経過　（4）～（5）
第3章　調査の結果　（6）～（12）
第4章　おわりに　（13）

挿図目次

第1図　周辺の遺跡分布図　（2）
第2図　調査地の位置図　（5）

図版目次

図版1　1期調査全景
図版2　1期調査の北
図版3　1期調査の南
図版4　2期調査の全景
図版5　2期調査の北
図版6　2期調査の南
図版7　遺構配置図

第１章　位置と環境

郡遺跡は、大阪府茨木市上郡、郡、春日、畑田、上穂積に所在する弥生時代から中世までの複合遺跡である。

千里丘陵の北東端の麓から老ノ坂山地を源する勝尾寺川と茨木川に合流し、南に流れていた茨木川が東に蛇行している右岸の間に立地している。

この地域は、高速自動車道中央道西宮線が東西に横断しており、また中央部近くに茨木インタ・チェンジがあり、それから派生するかのように国道１７１号線、府道高槻・京都線が放射状に通っており交通の要衝の地となっている。そのような交通の利点から付近一帯は、住宅地の中に倉庫や工場が混在している。また、一部農地を見ることができる。

郡遺跡の隣接地域には、畑田遺跡、中河原遺跡があり、これら遺跡相互間の有機的関連についても考える必要がある。

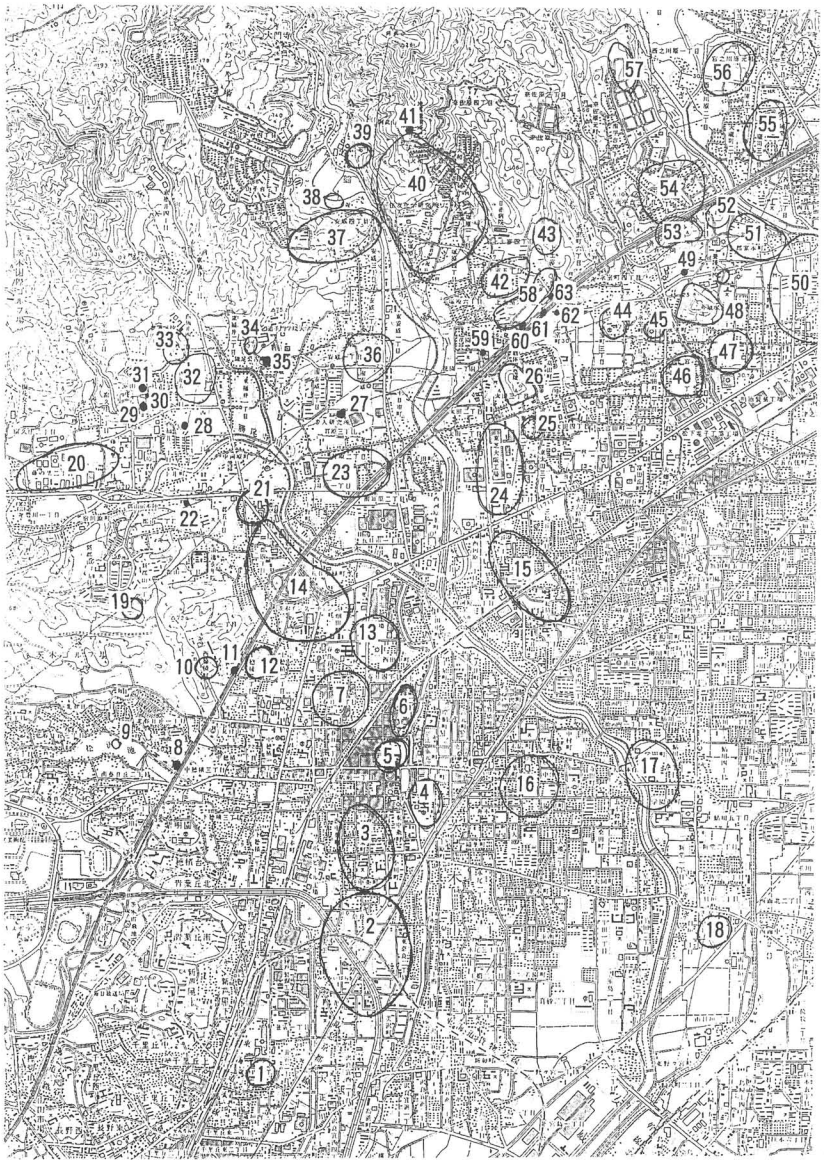
この付近の人間の最初の足跡は、郡遺跡の北に広がる老ノ坂山地の山麓に見ることができ、これから派生している洪積台地の茨木市宿久庄、安威、太田からはナイフ形石器、石核、剥片等出土している。今回の調査地の近くの上穂積においても尖頭器が発見されている。

周辺地域における縄文時代の遺跡は、茨木川の対岸に位置している洪積台地に立地している耳原遺跡において、後期から晩期の深鉢を棺として使った甕棺によって形成された墓域の一画が確認されている。

弥生時代の遺跡には、耳原遺跡、畑田遺跡、春日遺跡、中河原遺跡があり、調査はいづれの遺跡においても、部分的にしか行われていないが、耳原遺跡は弥生時代前期には集落が営なまれており、他の遺跡においても中期前半、集落が営なまれていたことがわかっている。

古墳時代の、北の老ノ坂山地の山麓には、紫金山古墳、南塚古墳、海北塚古墳、耳原古墳、新屋古墳群、安威古墳群がある。また、西の千里丘陵の山麓においても見付山古墳、上寺山古墳がある。

郡遺跡の西に隣接して穂積廃寺がある。数回の調査によって、瓦などが出土しており飛鳥時代に下ると考えられる古代寺跡である。



1　常楽寺跡　2　東奈良遺跡　3　中条小学校遺跡　4　新庄遺跡　5　駅前遺跡
6　上中条遺跡　7　倍賀遺跡　8　上寺山古墳　9　松沢池池底遺跡　10　弁天山遺跡
11　見付山古墳　12　穂積廃寺　13　春日遺跡　14　郡遺跡　15　総持寺遺跡　16　牟礼遺跡
17　溝昨遺跡　18　日垣遺跡　19　地蔵池南遺跡　20　宿久庄遺跡　21　中河原遺跡
22　郡山古墳　23　耳原遺跡　24　太田遺跡　25　太田廃寺　26　太田茶臼山古墳
27　耳原古墳　28　海北塚古墳　29　南塚古墳　30　青松塚古墳　31　紫金山古墳　32　西福井遺跡
33　新屋神社古墳群　34　神龍寺古墳群　35　将軍塚古墳　36　安威遺跡　37　安威古墳群
38　長ケ淵古墳群　39　桑原古墳群　40　塚原古墳群　41　阿武山古墳　42　上土室遺跡
43　新池遺跡　44　ツゲノ遺跡　45　氷室遺跡　46　宮田遺跡　47　郡家遺跡　48　今城塚古墳　49　狐塚古墳群　50　嶋上郡衙遺跡　51　郡家本町遺跡　52　上牧遺跡　53　岡本山古墳群　54　弁天山古墳群　55　大蔵司遺跡　56　宮之川原遺跡　57　尼ケ谷古墳　58　土室遺跡　59　石山古墳　60　二子山古墳　61　土保山古墳　62石塚古墳　63　番山古墳

図１　周辺の遺跡分布図

郡遺跡の南端に位置している春日神社には、鎌倉時代（延慶二巳辰年八月）の銘をもつ国指定の文化財の石燈篭もある。

郡遺跡の北には南海道（西国街道）が東西にはしり、また西には大阪街道が南北に縦断しており、遺跡の北西部近くにおいて交差している。付近一帯は、古代においても交通要衝地であった。郡遺跡の対岸の茨木川左岸の南海道の南の上野付近は続日本記にかかれている「植村駅」の推定地であり、東に隣接している耳原遺跡からその時代の集落跡も確認されている。付近の中河原遺跡、春日遺跡、倍賀遺跡においても奈良・平安時代から中世の集落が確認されている。

奈良時代の郡付近は地名などから摂津国嶋下郡の郡衙の推定地とされている。

第２章　調査に至る経過

株式会社孔官堂（代表取締役　増田久弥）から茨木市に、茨木市畑田町１４８番地の倉庫建築に伴う事前協議が行われ、同時に教育委員会社会教育課に埋蔵文化財についての協議があった。

それに対して、社会教育課は当地域一帯が弥生時代から中世までの郡遺跡内であることを回答した。

回答により、株式会社孔官堂より教育委員会に対して埋蔵文化財を確認するため、試掘調査の依頼があった。

社会教育課は、平成３年８月２日に試掘調査を実施した。試掘の結果、現地表下1.40ｍの盛土・耕土及び床土の下層に弥生式土器・土師器・須恵器を含む包含層が確認された。また、柱穴らしき遺構も検出された。

今回計画されている倉庫建設に対して発掘調査が必要であると孔官堂に対して回答を行った。

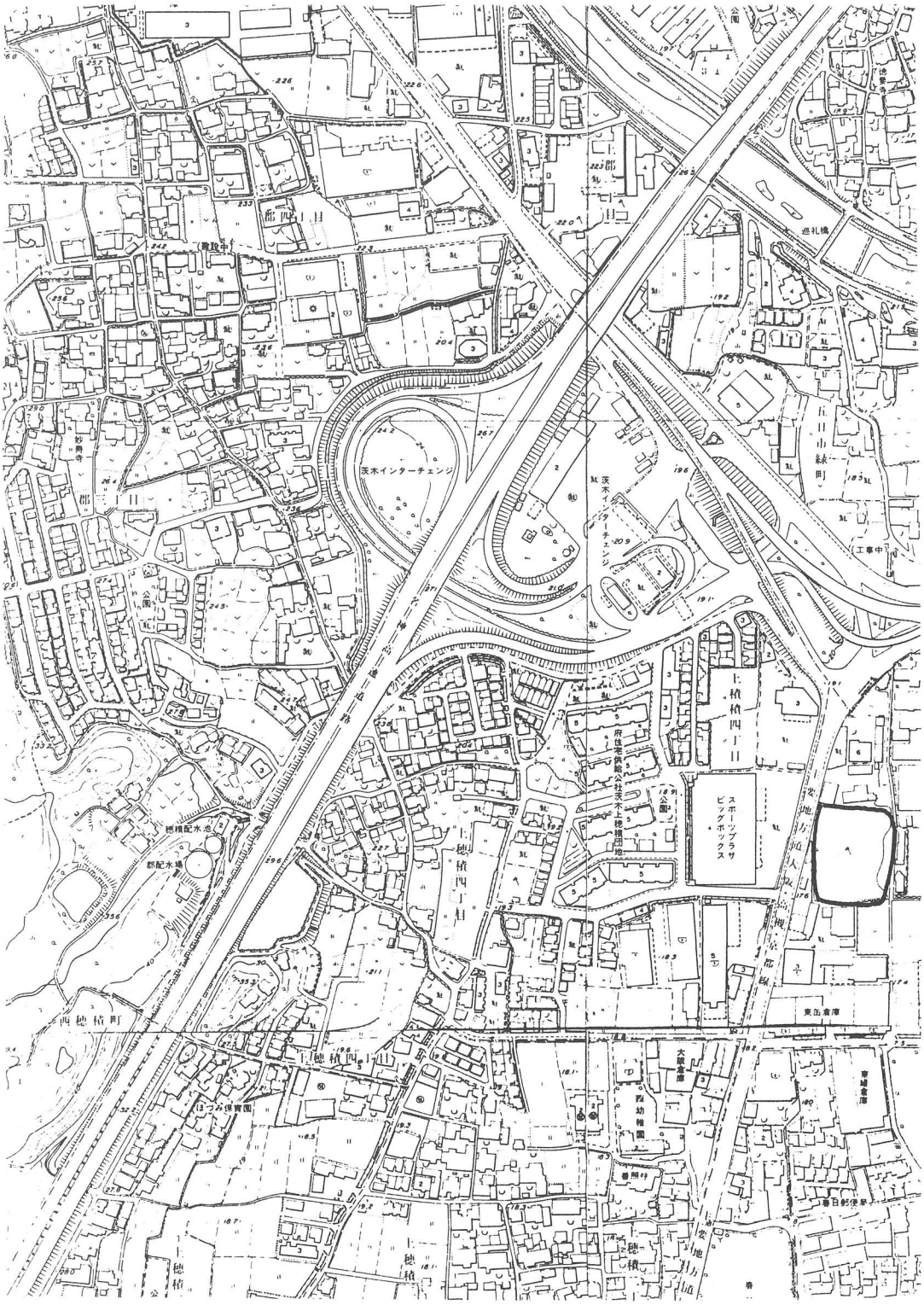
それに対して、株式会社孔官堂から教育委員会に対して平成３年８月26日に発掘調査の依頼があった。

株式会社孔官堂の事業者代理人である川西建設株式会社（代表取締役　川西保雄）と教育委員会との間で、発掘調査に関する契約を行った。

平成３年11月20から平成４年１月18日まで発掘調査を実施した。

調査は、倉庫建設により埋蔵文化財に支障が生じる範囲において行った。調査は用地の関係もあり１期調査、２期調査に分けて行った。

整理作業は、茨木市立文化財資料館において、平成４年４月１日から平成５年１月31日まで行った。


茨木インターチェンジ
茨木インターチェンジ
上穂積四丁目
スポーツプラザ
ビッグボックス
上穂積四丁目
穂積配水池
郡配水場
西穂積町
上穂積四丁目
東五倉庫
大阪倉庫
西幼稚園
東幼稚園
春日郵便局
上郡四丁目
郡四丁目
妙舞寺
上目中緑町
工事中
巡礼橋
公園
上穂積
上穂積

第２図　調査地の位置図

第３章　調査の結果

方形周溝墓

調査地域の北西端において、平面がＬ字形に呈する溝が検出された。後世の削平によって台状部が失われて溝部分のみを検出した。

検出面は、周溝の幅が65㎝～74㎝、深さが16㎝～23㎝を測り、底面はほぼ平坦である。規模としては、短辺が３ｍ65㎝以上、長辺が５ｍ62㎝以上の大きさである。

周溝内に褐色土が堆積しており、弥生時代中期中頃（畿内第３様式）の壺・甕片が出土した。

溝－１

調査地域の北辺のほぼ中央から東へ大きく蛇行して調査区外へという弓状を呈した状態で検出した。

幅が１ｍ32㎝～２ｍ35㎝、深さが32㎝～85㎝を測る。底において深まるところも見られる。

溝の堆積の状態は、上層は褐色土、下層は淡茶色細砂層になっており、底の深まるところにおいては、厚く堆積している。出土された層からは、明確な差を認めることができない。上・下層からは６世紀中頃から７世紀前半の須恵器および土師器が出土した。

溝－２

調査地域の中央部を東西に横断する状態で検出した。幅が0.57㎝～1.25㎝、深さが32㎝～47㎝を測る。

溝内の堆積は褐色土の単一層であり、７世紀前～中頃の須恵器および土師器が出土している。

溝－３

調査地域の中央を東西から北東に横断するような状態で検出した。一部南西

端において途切れた状態で検出した。幅が1.40㎝～1.80ｍ、深さは24㎝～47㎝測る。溝内の上層は褐色土層、下層には暗褐色土層が堆積していた。出土遺物は、上層、下層の時期差がなく６世紀後半～７世紀中頃の須恵器、土師器が出土している。

溝－４

調査地域の北半において、北西から南東という状態で検出した。

幅が0.34ｍ～0.84ｍ、深さが11～18㎝を測る。溝内の堆積は、褐色土の単一層堆積であり、６世紀前半から後半の須恵器が出土した。

溝－５

調査地域の南半において、方形に巡る状態で検出した。

幅が0.36㎝～42㎝、深さは８㎝～17㎝を測る。溝内は淡褐色土の単一層堆積であり、古代末から中世への土師器、黒色土器、瓦器を出土した。

溝－６

一部途切れた状態で検出されたが、溝－５の北西から南西部を堀りなおした状態を呈している。

幅が、33㎝～41㎝、深さは７㎝～14㎝を測る。堆積土、出土遺物は、溝－６と変わりはない。

溝－７

調査地域の南半部において北西から東南へという状態で検出した。

幅が0.92ｍ～1.21ｍ、深さが44㎝～62㎝を測る。溝内には、小さい礫を含む暗褐色土が堆積している。弥生時代後期（畿内５様式）の弥生式土器が出土した。

土壙－1

調査地域のほぼ中央部において検出した。

短軸が１ｍ58㎝、長軸２ｍ65㎝のほぼ楕円形の平面をしており、深さは32㎝を測る。底面はほぼ平坦である。出土遺物は、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器と共に遺存状態は悪いが、動物の骨が出土した。

土壙－2

平面形は、楕円形を示し、短軸が１ｍ16㎝、長軸が１ｍ86㎝、深さは46㎝を測る。

埋土は、暗褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

土壙－3

平面形は、やや変形した楕円形を示し、短軸が１ｍ15㎝、長軸が２ｍ17㎝、深さは42㎝を測る。

埋土は、暗褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

土壙－4

土壙－３の南東に隣接した状態で検出した。

平面形は楕円形を示し、短軸が１ｍ56㎝、長軸95㎝、深さは55㎝を測る。埋土は、暗褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

土壙－5

調査地域の北端部において検出された、全体の約半分を検出した。

平面形は径、２ｍ15㎝の半円形を示し、深さ１ｍ45㎝を測る。埋土は、上層は褐色土、下層は黒色土である。上層、下層から弥生時代中期（畿内３様式）の弥生式土器が出土した。

土壙の底は帯水層の淡黄色砂層であり、調査時においても湧水が認められたので、井戸の可能性がある。

土壙－6

平面形は、ほぼ楕円形を示し、短軸が１ｍ75㎝、長軸が１ｍ96㎝、深さ34㎝を測る。淡褐色土が堆積しているが、出土遺物は出土しなかった。

土壙－7

平面形は、楕円形を示し、溝－３によって長軸の一部が削られた状態で検出された。短軸が１ｍ38㎝、長軸が２ｍ65㎝以上、深さは25㎝を測る。淡褐色土が堆積しており、６世紀後半の須恵器が出土した。

土壙－8

平面形は、長辺が１ｍ73㎝、短辺が92㎝の長方形を示し、深さは18㎝を測る。底面は、ほぼ平坦であり、出土遺物は出土しなかった。

土壙－9

平面形は、長辺が１ｍ４㎝、短辺が１ｍ57㎝の長方形を示し、深さ26㎝を測る。

埋土は、淡褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

土壙－10

平面形は、短軸が１ｍ44㎝、長軸が３ｍ15㎝のやや変形をした楕円形を示し、深さは47㎝測る。底面は舟底状になっている。

埋土は、淡褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

土壙－11

平面形は、短辺が92㎝、長辺が１ｍ92㎝以上の長方形を示し、深さは21㎝測る。

埋土は、淡褐色土であり、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

掘立柱建物－1

調査地域の北東部で検出した総柱の桁行３間×梁間３間の建物跡である。桁行の柱間１ｍ62㎝、梁間の柱間は１ｍ71㎝を測る。

棟方向は、磁北より西に44度振っている。柱穴の掘形は、やや変形しているがほぼ方形を呈し、深さ35㎝～52㎝を測る。

掘形内には淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器が出土した。

掘立柱建物－2

掘立柱建物－１の南東約８ｍに位置し、総柱の桁行３間×梁間３間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ52㎝、梁間の柱間は１ｍ74㎝を測る。

棟方向は、磁北より西に18度振っている。柱穴の堀形は、やや変形しているが、ほぼ方形を呈し、深さ35㎝～52㎝を測る。

堀形内には、淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器が出土した。

掘立柱建物－3

掘立柱建物－２の南東約６ｍに位置し、総柱の桁行２間以上×梁間３間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ62㎝、梁間の柱間は１ｍ70㎝を測る。

棟方向は、磁北より西に16度振っている。柱穴の堀形は、やや変形しているが、ほぼ方形あるいは円形を呈し、深さ15㎝～57㎝を測る。

堀形内には、淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器が出土した。

掘立柱建物－4

掘立柱建物－３の西南に約２ｍに位置し、調査地域の関係によって一部の柱穴に欠落がみられるが、桁行２間×梁間５間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ68㎝、梁間の柱間１ｍ83㎝を測る。

棟方向は、磁北より西に15度振っている。柱穴の堀形は、やや変形している

がほぼ方形あるいは円形を呈し、深さ12㎝～42Cmを測る。

堀形内には、淡褐色が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

掘立柱建物－５

調査地域の西南部において検出された。総柱の桁行１間以上×梁間２以上間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ67㎝、梁間の柱間は１ｍ65㎝を測る。

棟方向は、磁北より西に40度振っている。柱穴の堀形は、やや変形しているが、ほぼ方形あるいは円形を呈し、深さ17～44㎝を測る。

堀形内には淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器を出土した。

掘立柱建物－６

掘削柱建物－３の南東に約11ｍに位置し、調査地域の関係により、一部の柱穴の欠落がみられるが、桁行２間×梁間５間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ81㎝、梁間の柱間は１ｍを測る。

棟方向は、磁北より西に30度振っている。柱穴の堀形は、やや変形しているが、ほぼ方形あるいは円形を呈し、深さ21㎝～47㎝を測る。

堀形内には、淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器が出土した。

掘立柱建物－７

調査地域の西南部において、また掘立柱建物－６の西南約3．5ｍの位置に検出された。総柱の桁行２間以上×梁間３以上間の建物跡である。桁行の柱間は１ｍ82㎝、梁間の柱間は２ｍを測る。

棟方向は、磁北より西に31度振っている。柱穴の堀形は、やや変形しているが、ほぼ方形あるいは円形を呈し、深さ16㎝～41㎝を測る。

堀形内には、淡褐色土が堆積しており、６世紀後半から７世紀中頃の須恵器が出土した。

建物ととして確認されたものは、７棟である。いずれの建物においても棟方向が西に約45度前後振っていることや、また柱の堀形から出土した土器が６世紀後半から７世紀中頃のものであり、掘立柱建物－１～－７が、同時期の可能性が高いと考えられる。

また溝－２も掘立柱建物の棟の方向とほぼ同一方向と考えられ、掘立柱建物１－４、掘立柱建物５－７とを区画する溝の役割をはたしていたと考えられる。

柱　穴

調査地域全域において検出された。

平面は、円形および方形に区別することができる。方形の柱穴は、一辺が50㎝～80㎝前後の比較的大きいものに限られている。円形の柱穴は、径が20㎝～30㎝の小さいものと、径が40㎝前後の大きいものに別れる。出土遺物によって時期差を明確にすることはできない。

しかし、溝－５に囲まれた区画内には、平面が円形の径が20㎝～30㎝の柱穴が検出され、柱穴の堀形から溝－５同一時期を示す遺物が多くみられる。

第4章　お　わ　り　に

今回の発掘調査より検出された遺構は、大きく別けて、弥生時代、７世紀代、古代末から中世への三時期に別けることができる。

弥生時代の遺構は、方形周溝墓および溝－７であり、時期は異にするが弥生時代の集落を考えるための資料を提供することができた。弥生時代中期方形周溝墓が検出されたことにより、弥生時代の郡遺跡の墓域の一画を明らかにすることができた。

７世紀代の遺構としては、多くの柱穴を確認することができ、径が0．8m～１m前後の円形、一辺が0．8m～１mの方形の柱穴である。掘立柱建物として確認することができたのは７棟であり、いづれの建物も西に約15～30度軸が振れていることから、また柱穴の堀形内からの出土遺物も同じ時期と考えられることからも、掘立柱建物－１～－７の時期が同じ時期であると考えられる。掘立柱建物として確認できたものに、倉として考えられる総柱建物もあり、集落内における建物配置を考える資料が得られた。この付近一帯は、摂津国嶋下郡衙の推定地であり、また穂積氏の在郷地としても知られており、それらと考えられる集落との関連の意味をもつ調査でもあった。また、古墳時代から律令体制への過渡期をも表す建物でもある。

古代末から中世へ時期の遺構は、径が20㎝～30㎝の円形の柱穴で方形に巡る溝－５である。柱穴は、溝－５に囲まれた内においても多くが検出されており、柱穴と溝－５の有機的関連性も考えられる。

今回の発掘調査で、いままでの遺跡の様相があまり判明していなかった郡遺跡であるが、いくつかの成果を得ることができた。今後も郡遺跡様相解明の手掛かりをつかみたいと考える。

図　　版

図版1　1期調査全景

図版2　1期調査の北

図版3　1期調査の南

図版4　2期調査の全景

図版5　2期調査の北

図版6　2期調査の南

掘立柱建物－1
掘立柱建物－2
掘立柱建物－3
掘立柱建物－4
掘立柱建物－5
掘立柱建物－6
掘立柱建物－7
掘立柱建物－8
掘立柱建物－9
土壙1
土壙2
土壙3
土壙4
土壙5
土壙6
土壙7
土壙8
土壙10
土壙11
溝－1
溝－2
溝－3
溝－4
溝－5
溝－6
溝－7
溝－8
方形周溝墓

1/170

郡遺跡発掘調査概報
（株式会社孔官堂倉庫建設に伴う調査）
平成５年３月１５日　印刷
平成５年３月１５日　発行
編集及び発行　茨木市教育委員会